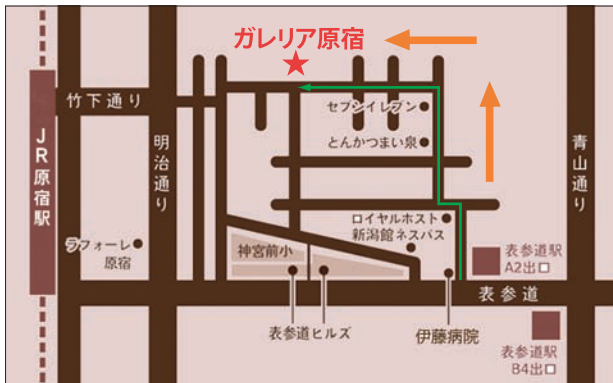


＜2011年度在京白聖会クラブ活動スケジュール＞

- 10月28日(金)「第9回 在京白聖会ゴルフ大会」
(場所: ザ・ゴルフクラブ竜ヶ崎)〈茨城県龍ヶ崎市〉<8面>
- 11月12日(土)「ルネ・ラリックの作品鑑賞」など
(場所: 箱根ラリック美術館&長安寺)〈1面>
- 11月19日(土) 中世城郭探訪
(場所: 烏山城)〈栃木県那須烏山市〉<7面>
- 12月15日(木)～19日(月)「第4回 白聖芸術祭」
(場所: ガレリア原宿)〈渋谷区神宮前3丁目〉<1面>
- 平成24年2月12日(日)「歌の祭り」
(場所: Blue-T)〈渋谷区笹塚〉<7面>

※ご質問、ご不明な点は事務局 (03-3431-5860) までお問い合わせ下さい。



会場の「ガレリア原宿」

●開催期間 12月15日(木)～19日(月)
11:00～19:00
(ただし最終日は15:00まで)

●会場 ガレリア原宿 〒150-0000
渋谷区神宮前3-14-17 電話03-6447-1796 FAX03-6447-1797

●アクセス JR山手線「原宿」駅より徒歩7分(竹下通り口)、地下鉄「表参道」駅より徒歩5分(A2出口)、地下鉄「明治神宮前」駅より徒歩6分(5番出口)

●募集作品 ジャーナルを問わず(歌、句等は色紙等に書いて、掲示できる体裁にて出展。不明な点は在京白聖会事務局に)

●出展点数 一人一点

●出展料 無料ただし、作品の搬出入及び展示額等展示にかかる費用は全て出展者の負担

●出展資格 在京白聖会会員(在京白聖会23年度年会費2千円を、同封の振込用紙にてお納め下さい)

●搬入(宅送) 12月13日(火) 12:00～18:00
12月14日(水) 10:00～12:00
または、12月14日(水) 10:00～12:00
(持込) 12月14日(水) 10:00～

2011 白聖芸術祭

出展者募集

年末恒例行事となった白聖芸術祭、第4回目を迎えた本年は会場を表参道・原宿に移し、開催期間も5日間になってさらにパワーアップ。会場にて歌、朗読、演奏、詩吟などの実演ができるようになり、出演者を募集します。展示の作品を鑑賞しながらパフォーマンスも楽しめるようになった白聖芸術祭。多くの方のご参加、ご来場をお待ちしております。

会場は表参道、5日間の開催に

12月15日(木)～19日(月)

在京白聖会報

第31号

平成23年9月17日

発行

在京白聖会
(事務局)

〒105-0003 東京都港区

西新橋3-5-2

西新橋第一法規ビル5F

玉澤健児税理士事務所 内

TEL&FAX.03-3431-5860(直通)

http://www.hakua.soikei.co.jp/index.htm

参加者募集

「箱根ラリック美術館&長安寺」見学会 第6回ル・サロン・ブラン——平成23年11月12日(土)——

長安寺境内で五百羅漢・四天王レリーフ等を52年卒の彫刻家伊藤馨一さんの解説で鑑賞。その後、箱根ラリック美術館でアール・ヌーボーとアール・デコ、双方を代表する宝飾・ガラス工芸家ルネ・ラリックの作品を鑑賞します。

●日時 11月12日(土)

●集合 08:00 小田急ハルク前・新宿駅西口35番バス停 <http://www.odaky-l-rakko-rehigway.co.jp/pop/map.htm#shinjuku>

●行程 新宿西口発 08:30 ↓箱根仙石着 10:30 ↓紅葉の名刹長安寺拝観・徒歩5分でラリック美術館。昼食をとり見学 ↓仙石案内所発 15:40 ↓新宿西口着 17:45

●経費 小田急高速バス新宿～仙石案内所・往復割引乗車券3330円(片道1800円)

500円。美術館入館料1500円。昼食代2200円 ※バス予約は、お早めに各自お願いいたします。 <http://www.odaky-l-rakko-rehigway.co.jp/route/index.html>

小田急箱根高速バス電話予約センター。電話03-3427-3160(10:00～19:00)

●申込 10月20日(木)までに在京白聖会事務局へ。

●鑑賞 美術館内、各自自由行動です。鑑賞やショッピングをお楽しみ下さい。

●参加資格 在京白聖会非会員の参加も可能です。(在京白聖会会員で年会費未納の方は当日、納付することが可能です)

●その他 長安寺境内は急坂です。歩きやすい靴でご参加下さい。65歳以上の方は免許証など、年齢を証明できるものをご持参下さい。美術館入館料が1300円となります。

12:00 ※飾り付けは、出展者有志で行います。12:00～19:00

●搬出 12月19日(月) 15:00～19:00 ※搬出に來られない場合は、着払いにて宅送可能

●案内状 出展者には10枚の案内状をお送りしますが、さらに必要な場合は、出展申込時に所要枚数を明記のこと。

●出展申込 次の事項を明記(様式自由)して11月12日(土)までに在京白聖会事務局へ郵送またはFAXのこと(電話連絡不可)

①氏名 ②卒業年次 ③連絡先住所及び電話番号 ④出展するジャンル ⑤タイトル ⑥寸法(絵画の場合は号数) ⑦作品の搬出入の詳細(持込・引取・宅送等の別) ⑧案内状の必要枚数 ⑨懇親会参加の有無及び参加人数(高校生以下は明記)

●歌舞音曲 12月17日(土) 13:00～15:00の間、会場にて歌・演奏、詩吟等の実演を行うこととしておりますので、出演者を募集します。各人が歌唱(演奏)できる曲数は、出演者の人数によって決定いたします。

出演料はありません。楽器等の輸送に係る費用は出演者負担です。

●朗読会 昨年と同じく、野口鶴子さん(S40卒)による宮澤賢治と五行歌の作品の朗読を行います。

●日時 12月17日(土) 12:00から1回公演

※なお、歌や演奏、朗読はすべて立席での鑑賞となりますのでご了承下さい。

●懇親会 12月17日(土) 15:00～17:00の間、会場にて懇親会を開催します。参加費3000円。作品出展・出演の有無に関わらず誰でも参加できます。

※その他、不明な点は在京白聖会事務局にお問い合わせ下さい。

※懇親会のみに参加希望の方は、12月14日(水)までに事務局へご連絡下さい。

●お願い 撮影の許諾について
出展作品を撮影し、在京白聖会報来春号に作品写真を掲載することを了解された上でお申込み下さい。

東日本大震災に対する 募金活動の結果報告

— 総額657万円余を寄附 —

7月20日(水) 岩手県東京事務所にて

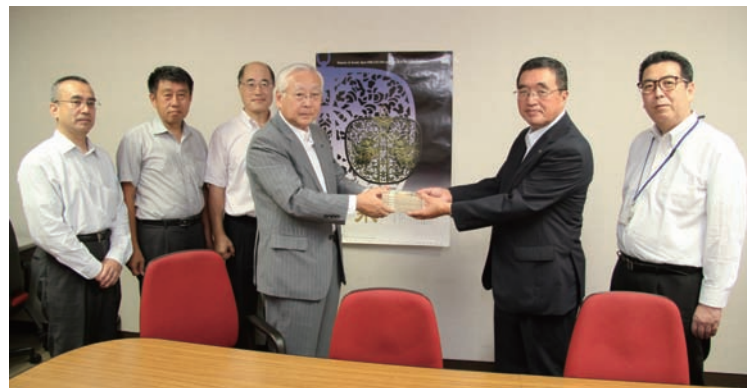
今年の在京白聖会総会は、ふるさとの復興支援のためにやろう、との声を受けて開催しました。その企画のメインとして募金を行い、その呼びかけに応じて集まった募金の結果について、御報告します。今春発送の会報に同封しました趣意書では、「義援金」を募るとなっておりましたが、今後も継続的に無理なく我々が岩手の復興に協力していくためには、被災者に現金として渡される「義援金」とするよりも、ふるさと復興のための資金となる「寄附金」とすることにし、しかもその際、ふるさと納税制度を活用する方法が良いと判断し、この方法

によることを総会に諮り、参加者の賛同を戴きました。ふるさと納税制度とは、故郷に税金を納めるものではなく、任意の地方自治体に寄附をした人に税金上の恩恵を与える制度です。その詳細及び恩恵は、本会報の記事「ふるさと納税制度」活用のお願い」をお読み下さい。

お寄せ戴いた寄附金の詳細は、次のとおりです。

郵送分は317名4,257,425円、総会当日に個人としての寄附が42名493,000円、更に総会懇親会の余剰金は寄附金に回すということと、その額は925,825円(懇親会参加者1人当たり3,045円)でした。また総会において実施したチャリティ販売の収益が400,646円で、これも寄附に回しております。なお、郵送分には、本年4月末に亡くなられた故大村和夫氏(S30卒)夫人からお預かりした香典全額(1,733,000円)が含まれております。

さらに、総会において、ふるさとからのメッセージということで、大船渡市長戸田公明氏



在京白聖会から岩手県にふるさと復興支援のため寄付金を贈呈 (7月20日、岩手県東京事務所) 左から在京白聖会・日向裕(S54年卒幹事代表)、大澤邦雄事務局次長(S43卒)、玉澤健児事務局次長(S43卒)、馬場信会長(S41卒)、岩手県東京事務所・鈴木健夫所長、小向正悟部長(小向部長は昨年の幹事年の白聖S52卒)

(S43卒)及び宮古市長山本正徳氏(S49卒)にビデオ出演して戴いて復興への熱い思いを語って戴きましたが、この現地取材に際して、復興に使って戴くために、在京白聖会として各々10万円を寄附しております。

両市への寄附を除いた6,076,896円は、7月20日、岩手県東京事務所において、馬場会長から鈴木岩手県東京事務所長に手渡しました。

また、在京白聖会幹事会での承認を受けて、これ以外に、家族が被災した一高生徒の援

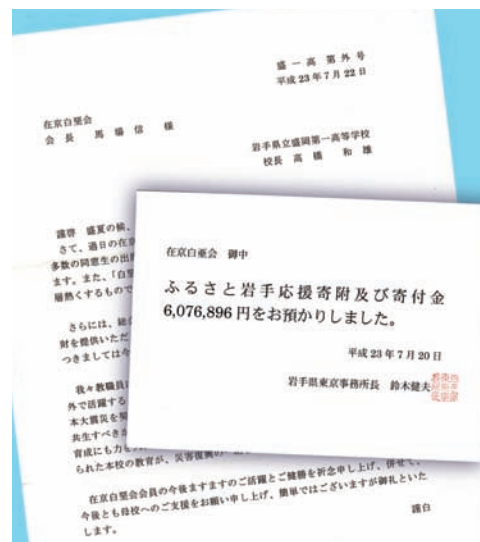
助及び一高が実施している被災した岩手県の高校生を支援する事業のために、母校に対して30万円を寄附しております。以上、在京白聖会としての寄附金総額は6,576,896円ということになりました。これは、ふるさと復興を願う我々の熱い思いの結晶であり、寄附をして戴きました会員の皆様に篤く御礼申し上げます。

個人として寄附をされた方及び総会に参加された方を併せ、実質817名の方々には、

会報と一緒に岩手県発行の寄附金受領証明書を同封しております。寄附金受領証明書を

受取った方は、本会報の記事「所得税確定申告に際しての注意事項」をお読み戴き、該

当される方は、来春2月16日から3月15日の間に所轄の税務署に確定申告を行うか、お



盛岡一高・高橋和雄校長からの礼状(写真下)と、岩手県東京事務所長発行の預り証(写真上)



ふるさとの復興応援を謳った総会はNHKの取材を受け全国に放映された

在京白聖会事務局

はいけません。その方法の一つとして、ふるさと納税制度を活用しながら、これからずっと生きている限り、ふるさとを応援して戴きますよう、宜しく願い申し上げます。

住まいの市町村へ住民税の寄附金税額控除適用の申請をされて下さる。ふるさとの復興には、これから長い年月と莫大な資金が必要です。そのためには、援助を一過性のものにして

2011総会報告

白聖の絆で
岩手復興支援を誓う

～今こそ、白聖の力を！～

日時…5月14日(土)
総会・応援会…16時～18時30分
場所…東京ガーデンパレス

岩手の復興を願い大盛況となった2011年在京白聖会総会

第43回在京白聖会総会は、5月14日(土)、文京区湯島にある東京ガーデンパレスにおいて、予定通り開催されました。今回は東日本大震災を受け「今こそ、白聖の力を！」をテーマとし、岩手復興支援のための義援活動としての開催となりました。お酒はなく、食事も軽食という内容にもかかわらず、予想を大きく上回る三百一十一名の皆さまにご出席をいただき、あらためて白聖の絆の強さを実感することとなりました。

当日は、母校より高橋和雄校長、安達孝一白聖同窓会会長にご出席をいただきました。第一部の総会報告に続いて、例年懇親会となる第二部では、「応援会」と題して、岩手にエールを送る内容で会は進行しました。我々54年卒が、33年前に甲子園出場を果たした時の映像を中心に構成されたDVD「東日本大震災復興支援 白聖応援団」が上映され、応援旗のもとに一丸となった熱い思いを会場の皆さまとともに共有したところで、第二部が始まりました。

岩手からの報告では、被災地でご尽力をされている山本正徳宮古市長(S49卒)、戸田公明大船渡市長(S43卒)の両先輩からのビデオメッセージ、また現地で頑張っている仲間たちからはメールによるメッセージが紹介されました。そして岩手県を代表して同期の仲間からは、岩手復興への力強いプレゼンテーションがされ、会場は岩手への強い思いで満たされました。

た。その後の岩手へ向けたエールでは、白聖の魂が一つになり、岩手復興支援への誓いへと昇華されたのです。

また、会場前のロビーではチャリティ販売が行われ、被災地の沿岸部のほか岩手県内の産品、さらに個人で出品された方々の作品なども販売され、ほぼ完売状態でした。

3月11日以前そして以降、我々は二つの同窓会を経験したような複雑な思いで当日を迎えました。しかし、悩んだ末に出した結論に、迷いはありませんでした。開催して本当に良かったと思っています。

この大きな出来事を通して、白聖の絆はさらに強固となり、在京白聖会のあらたな歴史の一步が踏み出されました。

この絆は、来年幹事となる五十五年卒の皆さまに確実に引き継がれることと思います。

最後に、開催へ向けて応援してくださった多くの先輩、後輩の皆さま、チャリティ販売にご支援、ご協力をいただいた関係者の皆さまに心より御礼を申し上げます。



白聖OBの戸田公明大船渡市長、山本正徳宮古市長からのビデオメッセージも披露された



ロビーではチャリティ販売も行われた

上げます。

今回集められた義援金とチャリティ販売の売上は、ふるさと納税と寄付金として、7月20日、岩手県東京事務所へ届けられました。

皆さまどうもありがとうございました。

(54年卒幹事団一同)



S36年卒までの皆さん



S37年～42年卒



S43年～50年卒



S51年～53年卒



S54年卒(幹事の皆さん)



S55年卒～

「ふるさと納税制度」活用のお願い

1. はじめに

東日本大震災により、未曾有の損害を蒙った我が郷土岩手のために、沢山の方々が「自分にできることはないか」と思われ、そして既に寄附などの支援活動をなされていると思います。ただ復興には5年、10年単位の時間が必要です。その長期に亘る復興を、長期に亘り支援する方法として最適なものが「ふるさと納税制度」です。

ここにその概要をご紹介します、一人でも多くの方がこの制度を活用され、郷土岩手の復興を後押ししていただければと思います。

2. 「ふるさと納税制度」の概要

(1) かいつまんで言いますと、岩手県や県内市町村に寄附を行いますと、所得税（国税）が一部還付となり、住んでいる所の住民税（県税と市町村民税）が一部減額になる、という制度です。（ふるさとに「納税」する訳ではありません。）

(2) 例えば、さいたま市に住む年収500万円の独身男性が、大船渡市に3万円を寄附すると、所得税が2,800円還付となり、住民税が22,500円（埼玉県民税が4割の9,000円、さいたま市民税が6割の13,500円）減額されます。合計25,300円もの税金が還付、減額されますので、実質自己負担額は4,700円となります。（ケース別「自己負担」計算例を参照）

(3) そのためには、所得税の確定申告が必要となります。寄附は、県と宮古市と山田町、というように複数行うことも可能です。申告の時は、これを合算して行います。

(4) 「ふるさと納税制度」の良い所は、

寄附をする側からは、

- ① 寄附する先を選べること
- ② 税金上の恩典が大きいこと、であり、

寄附を受ける側からは、

- ① 寄附した人の顔が見えること
- ② そのことにより「支援」の気持ちがしっかり伝わること（長期に亘ればなおさら）、です。

(5) 税金上の恩典は、次のように計算されます。

① 所得税

（寄附金額 - 2,000円）が所得控除の対象となり、課税所得から控除されます。

（その額に税率を掛けた額が還付となります。）

② 住民税

次のイとロの合計額が、本来の住民税から控除されます。

イ. 基本分：（寄附金額 - 5,000円）× 10%

ロ. 特例分：（寄附金額 - 5,000円）×（50～85%：所得の額により変わります）

但し、特例分は、住民税の「所得割」の10%が限度となります。

(6) 「ふるさと納税制度」の手順は、次の通りです。

- ① 「寄附金申込書」を県、市町村から入手し、必要事項を記入する。
- ② 提出（ファックス又は郵送など）する。
- ③ 県、市町村から専用振込用紙などが送付される。
- ④ 送金する。
- ⑤ 県、市町村から、「寄附受領書」が送付される。
- ⑥ 所得税の確定申告を行う（「寄附受領書」を添付）。
（確定申告は、翌年2月16日から3月15日の間に行います）
- ⑦ 所得税が還付される。
- ⑧ 住民税が減額される（計算は市町村が行います）。
- ⑨ ①に戻る（「還付金 + 減額分」+ α で寄附を続行!!）。

(7) 被害が甚大で「ふるさと納税制度」の受付ができない市町村（例えば陸前高田市）がありますが、その代わり、「義援金」を受付けています。送金先銀行口座は、インターネット等で調べられます。「義援金」でも、税金上の恩典は同じように受けられます。

ケース別「自己負担」計算例（注） (円)

区分	500万円			700万円			1,000万円		
	寄附金	還付等	自己負担	寄附金	還付等	自己負担	寄附金	還付等	自己負担
単身者	30,000	△25,300	4,700	30,000	△25,600	4,400	30,000	△25,600	4,400
	50,000	△32,300	17,700	50,000	△45,600	4,400	50,000	△45,600	4,400
	100,000	△42,300	57,700	100,000	△65,000	35,000	100,000	△84,700	15,300
夫婦	30,000	△23,900	6,100	30,000	△25,300	4,700	30,000	△25,600	4,400
	50,000	△26,600	23,400	50,000	△41,900	8,100	50,000	△45,600	4,400
	100,000	△34,100	65,900	100,000	△51,900	48,100	100,000	△81,400	18,600
夫婦 + 子供 2人	30,000	△25,150	4,850	30,000	△25,300	4,700	30,000	△25,600	4,400
	50,000	△18,800	31,200	50,000	△34,100	15,900	50,000	△45,600	4,400
	100,000	△26,300	73,700	100,000	△44,100	55,900	100,000	△73,600	26,400

（注）一定の前提をおいた所得控除額で計算していますので、実際は各人によって若干異なってきます。

所得税確定申告に際しての注意事項

- 1 年間の寄附金の合計額が2,000円（所得税の場合）又は5,000円（住民税の場合）を超える部分が、所得税還付又は住民税軽減の対象となります。（不足の方は、是非追加の寄附をよろしくお願い致します）
- 2 寄附金には、県や市町村に対する寄附金のほか、日本赤十字社や中央共同募金会に対する寄附金も含まれます。（いずれも受領書や振込証の添付が必要です）
- 3 課税所得のある方（所得税が発生する方）が確定申告できます。
- 4 所得のない妻や子供が寄附した分を、夫や親の寄附金額に含めることはできません。
（注 医療費控除の場合とは異なります）

※不明な点は、在京白聖会事務局にお訊ね下さい。

参加者募集

「烏山城」

(栃木県
那須烏山市)

織田信雄ゆかりの地を訪ねる!

第9回中世城郭探訪 — 平成23年11月19日(土) —



烏山城址からの眺望。

烏山城は、栃木県北部一帯を勢力下に治めていた那須一族の本家那須氏の本拠であった。那須一族の遠い先祖には、源平の屋島での戦いで、弓巧者ぶりを後世に語り伝えられた那須与一がいる。

城は室町時代に築かれ、戦国時代には、何度も攻め寄せてきた佐竹氏から守り通したが、秀吉の北条氏攻めに際して、小田原に参陣しなかったことで那須氏は改易となった。

没落した。その後、北条氏滅亡後の大名の配置替えに際して、秀吉の命に異を唱えた織田信雄が怒りを買って旧領を没収されて烏山城に配されているが、その数か月後には、秋田の八郎潟近くの寒村に配流となっている。

以後、明治維新まで、数万石の大名が度々入封されてきたため、城域は山頂部まで達する壮大なものでありながら、それを維持するだけの力がなかったこともあり、藩政は城跡の麓に設けられた陣屋でとられた。建物は、明治時代初めに降雪による倒壊と火災により、その大半が失われた。

〔開催要領〕

●日時 11月19日(土)

●集合場所 JR上野駅中央改札口内

●集合時間 08:30

●行程 往路：上野駅発08:52(東北本線) 宇都宮駅乗換(烏山線) 烏山駅着11:31。復路：烏山駅発16:38(宇都宮駅乗換) 上野駅着19:29

●参加資格 どなたでも参加できます(在京白聖会会員で年会費未納の方は、当日納付することが可能です)

●服装 山城に登りますので、歩き易い靴でお出下さい。

●申込 11月11日(金)までに事務局へお申込み下さい。

●昼食 宇都宮駅乗換時等に購入し、烏山駅到着までに済ませて下さい。

参加者募集

ピアノ伴奏で元気に歌いましょう!

第6回白聖「歌の祭り」 — 平成24年2月12日(日) —

「歌の祭り」は、来年2月に第6回を開催します。「ピアノの伴奏で大いに(合唱で、独唱で)歌って健康を増進しましょう」がこの会の趣旨です。歌が大好きな皆さん、奮ってご参加ください。

今年から、夏冬の名称を統一する運びになりました。今までの「歌の新年会」として開催のものも「歌の祭り」とし、夏冬年2回の開催にします。次回(冬)は第6回「歌の祭り」です。また、開催場所が笹塚に変更

われます。ホテルロビーの一角に、独立した構えで音楽活動をする店です。店名「ブルーティ」は提供する中国茶に因んだようです。なお、夏の開催場所は変わらず、中延「ボナベティ」の予定です。

〔開催要領〕

●日時 平成24年2月20日(日)

12:00~17:00

●場所 Blue・T(ブルーティ)

渋谷区笹塚1-61-8 ホテルラガール新館1階 電話03-33375-1474

●アクセス 京王線・京王新線笹塚駅前の甲州街道(国道20号)沿いに調布方面へ徒歩5~6分。ビーチパラソルの所です。

●参加費 5000円(ただし、ノン・アルコールは4000円)(在京白聖会会員で年会費2000円未納の方は、当日、納付することが可能です)

●申込先及び申込期限 12月20日(火)までに「参加希望」を下記宛に(卒業年や、FAX、Eメールアドレス等もお知らせ下さい。追ってご案内をお送りします。なお独唱(一人2曲まで)を希望する方は、この期日までに楽譜をお送りください。

●申込連絡先 早坂光平(31年卒)

〒175-0082 板橋区高島平8-27-11・207

電話&FAX: 03-39332-27

25 Eメール: hayak@com.home.ne.jp

●楽譜送付先 阿部克行(31年卒)

〒261-0011 千葉市美浜区真砂2-23-9・503

電話&FAX: 043-279-4707



今年8月3日、32名が参加しボナベティで開催された「歌の祭り」

第5回「歌の祭り」活動報告

地震復興祈願を込め、8月3日(水)東京・中延の「ボナベティ」店で開催



ピアノ伴奏などで次々と自慢のノドを披露

23名の参加で盛り上がる!

23年卒から29年卒までと、さらに参加年次の幅が広がり、初参加4名の方を加え、熱気で盛り上がりました。

12時から開始。最年長(23年卒)のお元氣な伊藤忠一さんの音頭で乾杯。軽食をとりながらの自己紹介・近況報告後、ピアノ伴奏で校歌を斉唱しました。

「遙かな友に」、「ふるさとの」(啄木の短歌)、「夏の思い出」など懐かしい歌十数曲を全員で声高らかに合唱。続いて、長岡満雄さん(41年卒)のピアノ演奏で10名の方がシューベルトの冬の旅、オペラのアリア、シャンソン、英ポップスなどを熱唱。あつという間にお開きの時間となりました。

参加者募集

平成23年10月28日(金)開催
第9回在京白聖会ゴルフ大会

東日本大震災のため6月の開催予定を延期していましたが、第9回在京白聖会ゴルフ大会を、10月28日に開催いたします。個人参加、年次でのチーム参加のいずれでも大歓迎です。特に若い皆さんの参加をお待ちしております。

東京駅からの送迎バスも用意しますので、どうぞご利用下さい。

〈開催要領〉

- 期日 平成23年10月28日(金)
- 会場 ザ・ゴルフクラブ電ヶ崎



昨年の参加者

〒3010857

茨城県龍ヶ崎市長原1592-77
電話0297640110

- スタート OUT-INとも09:15から各6組(募集締切後、参加者に組合せ・スタート順等を郵送)
- 集合 08:30(時間厳守)
- 募集定員 48名
- 参加資格 在京白聖会員
- 参加費 7000円(懇親会飲料代賞品代、在京白聖会23年度年会費(2000円)含む・年会費お支払い済の方は5000円となります)
- プレー費 15,800円(概算)・各自で精算(昼食代及び懇親会オードブル代を含む)
- プレー 18ホールズ・ストロークプレー。ハンディはダブルペリア方式で算出。同ネットは卒業年次上位。
- 対抗戦 1チーム4名の上位3名の合計スコア(1チーム3名の時は3名の合計スコア)で順位を決定する。ただし5名以上で参加の年次は、4名または3名単位で1チームとし、残余の者及び2名以下で

白聖五行歌会

白聖五行歌会は、毎月第1金曜日午後6時30分から秋葉原で歌会を行っています。参加をご希望の方は03-3269-3420(42年卒・白聖五行歌会代表・山田)までお気軽にご連絡ください。メールsakuraco@leaf.ocn.ne.jp可。

川土手に
どこまでもつづく
光の弧線 幾筋も
螢の道は
地上の天の川
吉田美雅子(S45卒)
緑の下に
どんな悲劇が
隠されているのか
上野の森に
蝉の諷経止まず
山田武秋(S42卒)

貴女の優雅な
心のこもった舞を
いつまでも忘れないよ
天上でも踊って下さい
若柳流舞踊を
伊奈 裕(S38卒)
質問する人はきれいだ
まつすく走ってくる意志
その透명한光は
今日も
わたしを照らしている
八十若(S22卒)

※2011年4月～8月の作品から。作者名はペンネームもあります。

TOPICS

『宮澤賢治』7月刊行

三陸を襲った明治の大津波の年に生まれ、同じく昭和の大津波の年に亡くなった宮澤賢治。「雨ニモマケズ 風ニモマケズ」の詩は、俳優の渡辺謙さんによって東日本大震災で被災された方への応援歌として朗読され、脚光を浴びました。エッセイストの澤口たまみさん(S54卒)が書いた「宮澤賢治―雨ニモマケズという祈り―」(新潮社1680円・7月25日刊行)は、そんな宮澤賢治の原風景を写真と

参加の年次は混成チームとして参加する。
●表彰 年次対抗戦団体優勝、個人戦優勝ほか各賞多数。
●送迎バス 東京駅・会場間の往復送迎バス(有料往復3千円、片道1千5百円)
▽集合 06:45東京駅八重洲口第2鉄鋼ビル前(時間厳守)▽東京駅発07:00
●申込 個人、チーム自由。ただし、卒業年次一括申込みを歓迎。次の事項を明記(様式自由)して10月14日(金)までに在京白聖会事務局へ電話連絡不可。①氏名②卒業年次③連絡先住所及び電話番号④チームの場合は代表者氏名⑤送迎バス利用の有無。

復興支援企画が続々

東日本大震災以降、自粛ムードが高まる中、いち早く様々な復興支援チャリティ行事が行われました。そんな中から、白聖の同窓が行ったいくつかのイベントを紹介いたします。

●高橋研さんがチャリティコンサート

「ぼくたちはひとりじゃない」We Live Together」というタイトルで、4月19日(火)、高橋研さん(S49卒)が地震災害支援チャリティコンサートを渋谷DUOで開催。このコンサートにはササキオサム(佐々木収さん・H3卒)も参加し、約300人を動員。用意した岩手の酒は、コンサート後、売り切れたる大盛況でした。

●生かされて岩手県三人展

三浦千波さん(S50卒)、伊東明子さん(S50卒)、三浦千江美さん(S53卒・千波さんの妹の三人展が、4月18～28日の11日間、銀座「アート・ロベ」で行われ、多くの同窓が見学に訪れました。大船渡出身の三浦さん姉妹は、実家が流される被害に遭われましたが、収益金30万円プラス三浦千波さんの絵1枚を大船渡市に寄贈。5月17日、3人そろって大船渡市を訪れ、戸田公明市長(S43卒)に手渡ししました。この様子は報道でも大きく取り上げられました。

●小坂蓉子さんが震災絵画発表

滝沢村在住の画家、小坂蓉子さん(S38卒)が、6月13日(土)、銀座アートホールで行われた「第22回画柳会展」において、津波をテーマとした作品を発表し、注目

エッセイでたどった好著(重松清氏、写真家・小松健氏との共著)です。
本書では宮澤賢治の「秘められた恋」の真実も新証言によって明らかにされています。
宮澤賢治 秘められた恋の真実も新証言によって明らかにされています。
宮澤賢治 秘められた恋の真実も新証言によって明らかにされています。



編集後記

東日本大震災は、多くの在京白聖会会員にとって、仲間や家族・親戚が亡くなられたり被災されるなど、他人事ではない大災害でした。それだけにふるさと再生への思いも強く、多くの方がそれぞれの立場で復興支援に立ち上がっています。

5月14日の総会開催についても、中止から従来の通り開催まで、いろいろな意見がでましたが、54年卒幹事の思いを第一に、酒肴なしでその分を義援金に回すという形での開催となりました。急ぎの内容変更に伴い、54年卒幹事の皆様には多大なご負担をおかけいたしました。総会は大盛況で、311名と、近年では最大の動員となりました。復興を願う白聖魂が一丸となった、在京白聖会の歴史に残る感動の総会でした。54年卒幹事の皆様に、あらためて御礼申し上げます。

会員の復興支援活動は、それこそ枚挙にいとまがありません。支援で大切なのは継続。その一環として、今号では「ふるさと納税」制度を紹介させていただきました。



小坂蓉子さんと津波を描いた大作「突然にII (3月)」の他多数の震災を描いた作品を発表した

を集めました。小坂さんは震災以降、他の絵を描く気にならず、被災者支援のボランティアのかたわら、ひたすら震災の絵を描き続けたといえます。映像や写真はたくさんありますが、小坂さんの作品には絵画ならではの訴える力があり、作者の鎮魂の祈りが伝わってきました。この絵画展でも、収益の一部が義援金として寄附されました。